

令和5年度 第5回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和5年8月14日(月)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 堀留 豊
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後3時50分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開 会
定刻、定足数に達しており、令和5年度第5回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和5年度第4回定例会会議録及び第1回臨時会会議録の承認について承認
- 3 議 事
議案第15号 垂水市学校給食費補助金及び負担金支給要綱の制定について
議案第16号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第15号 垂水市学校給食費補助金及び負担金支給要綱の制定について</p>	<p>垂水市学校給食費補助金及び負担金支給要綱の制定について、教育委員会会議の議決を求めるものである。</p>	特記事項なし	
<p>議案第16号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について</p>	<p>垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について、教育委員会会議の議決を求めるものである。</p>	特記事項なし	

議 事 内 容 等

<p>3 議 事</p>	<p>議案第 15 号 垂水市学校給食費補助金及び負担金支給要綱の制定について</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>垂水市学校給食費補助金及び負担金支給要綱の制定について、本要綱の事業の内容や経緯等の説明を行った。</p>
	<p>議案第 16 号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について、事務の点検方法や評価結果について説明を行った。</p>
<p>4 その他</p>	<p>全国学力学習状況調査について</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>全国学力学習状況調査について、今年度の概要の報告を行った。</p>

5 委員並びに教育長及び課長報告

委員並びに教育長及び課長報告に入る。

田原委員

7月25日午前は、臨時教育委員会でした。小学校教科書選定の地区結果の承認についての会議でしたが、どの教科書も写真やイラストを豊富に取り入れ、児童が自ら学べるように学習の仕方が説明されてあって、より興味関心を高め、学びを深めるためにQRコードがたくさんついていることに感心しました。デジタル機器が日々の授業や家庭での学習と直結していると思いました。先生方がこの教科書をどう使いこなして授業を構築していくか腕の見せ所かなと思う。

午後からは県教育委員研修会でした。前半は3つの行政説明と講演、後半が研修協議であった。行政説明のトップは生徒指導で、今回出された生徒指導提要の基本的な考え方の説明でした。「発達指示的生徒指導」は特定の問題生徒を意識するのではなく、全ての児童生徒を対象にして、全教育活動の中で児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重し、その発達過程に学校や教職員が向き合い、支えることであるという非常に難しい定義でしたが、今までの「積極的な生徒指導」とどこが違うのかと思いました。垂水中央中の生徒会の自主的な活動を推進して、側面から先生方が支えていく活動がまさに発達指示的生徒指導なのではないだろうかと思いました。

後半の研究協議は、「郷土教育の推進について」で、グループごとの話し合いが20分ありましたが、グループ内全員が発表する時間がなく、最後に発表原稿に回答する場面があり、垂水に振られました。「学んだことをタブレットでまとめて発信する垂水市の取組を教えてください」と司会者からの発言があり、答えたのが、「垂水市はGIGAスクール構想の取組で、子供達はタブレットをまさに文房具として活用できるようになっていて、今年の実用の方向性の1つ目は『学んだことを発信していく活動の充実』、2つ目が『交流活動の充実』です。質問の『学んだことをタブレットでまとめて発信する取り組み』は、小学校では学校のホームページやブログで紹介する取組、中学校では、さらにプログラミングソフトを導入して、沢登りや漁業体験などの活動を情報発信していきたいということでした。ただし、2学期からの取組ということで私たち教育委員も興味を持って見守っていきたくて考えております」と回答しました。

8月3日から4日は、九州地区市町村教育委員会研修大会佐賀大会に私と教育長、教育総務課長の3名と肝属地区から20名あまりが参加しました。前半はスポーツ庁の行政説明で「部活動の地域連携・地域移行について」の話があり、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行はまずは休日の活動を着実に進め、平日の環境整備は出来るところから取り組むこと。令和5年度から7年度までの3年間を改革推進期間として取り組み、可能な限り早期の実現を目指すこと。この問題は地域や学校規模等により全部違うので、地域の実情により様々な対応が必要であり、多様な形が生まれてもいいのではないかと思います。後半は10代の子供達だけの歌とダンスのステージ「ティーンズミュージカルSAGA」の幼稚園児から高校生まで

の華麗なダンスと歌は圧巻でした。演目の紹介も出演者自身でやり、大人の演出感の少ない、クオリティの高いステージでした。この子たちは学校も違い、年齢も違う子たちの集まりで、ただダンスや歌が好きな子たちが集まり、物語を演じているのであろうと思われ、そういう意味では、部活動の地域連携、地域移行の一つの活動例としての発表なのかなと思ったところでした。

葛迫委員

7月11日、垂水市の図画作品の審査会がありました。この審査会は第74回鹿児島県図画作品展へ出品する作品も同時に選出するもので、B4版、または八つ切りの大きさの平面に描かれたものが対象となります。各学校の出品点数が決まっており、審査は各学校から出品された作品の中から各学年5点を特選に選び、特選以外は入選としました。また、県の作品展に出品する作品は、特選に選ばれた作品の中から小学校6点、中学校3点、各学年から1点を選びました。昨年から中学生の作品には一生懸命に描こうとする努力が見られ、子供達の心の安定性が感じられるようになっていきます。描かれた絵からは心の描写も出てきます。そして作品の質も上がり指導する先生方の努力も感じられるなど審査しながら思うことでした。また、作品の内容も構図や色遣いなど似通った作品が多いように感じますが、図画作品をどのように仕上げていくことがいいのかということ指導者が分かっている、基本に沿って描くことが大事であるとした指導者に感服したところでした。多様化する作品を好む図画工作教育ですが、基本を大事にすることを今後も貫いてほしいところです。基本があつての多様性だと思うのでそこを大事にしてほしいと思います。小学生に目を向けてみると、1年生2年生の作品は、画面いっぱいを使いながら画面からはみ出し一生懸命に描く元気な子供達に出会えたと思っています。3年生4年生になると絵を描くこと以外にも興味を抱くものが表れてくることで、図画作品が少しまとまりのない作品が多く見え隠れしています。発達段階によるものと考えられますが、描く道具や身の回りの小道具などが増えることで指導者が一番苦勞する学年ではないかと思うところです。5年生6年生の図画作品は真摯でまとまりのある作品が多く、特に今年は6年生の作品に多く見られました。指導者で変わったのだらうと思いますが、上手にうまく描こうとすると、大人でもそうですが小手先の描写になりがちなので注意してほしいと思います。8月23日からはじまる黎明館での鹿児島県図画作品展が楽しみです。

夏休みに入ると県内の美術館や博物館では、幼児や園児、小中学生、高校生向けの様々な企画展が開催されていますので3つの美術館の企画展を紹介します。霧島アートの森では9月10日まで、定規と縄を使った作品で鑑賞者が一見遊んでいるようにも思えるような、展示室から屋外広場への繋がるインスタレーションを展開した作品を発表しています。鹿児島市立美術館では、夏フェスと題し「タグチアートコレクション」展を9月10日まで開催されます。会田誠の7メートルを超える大作「灰色の山」が会場入り口に展示されていましたが、その作品を前に立つと描かれたサラリーマンをゴミのごとく積み重ねた屏風を連想させる作品に身震いを感じたところです。現代社会の有り様を捉えた素晴らしい作品でした。黎明館では10

月1日まで、アニメージュとジブリ展が開催されています。雑誌「アニメージュ」の1978年の創刊から80年代に焦点を当て、高畑勲・宮崎駿両監督によるジブリ作品への道のりを紹介した展覧会です。是非、垂水市の子供達にもこれらの展覧会を堪能し、味わい、考える力を養ってほしいと思うところです。

田之上委員

7月25日、学校教育課より次年度使用の教科書、図書等についての説明を受けました。実際に手に取り、ポイントとなる部分については詳しく説明していただき、授業でどう使われるのかを想像することができました。次年度以降、児童にとって、いい学びができるものであってほしいと思うことでした。

午後の市町村教育委員会委員研修会では、「生徒指導の充実」、「学力向上及び教育の情報化」、「特別支援教育の推進」について事務局より説明がありました。短い時間ではあったが、私たちも定期的に現状を知り、学んでいかなければならないと感じました。また、「郷土教育の推進について」は、各市町村の取組状況についてみんなで話し合いました。資料が当日配布だったで、なかなか読み込みができず、協議が物足りないと思いましたが、短い時間でも他の市町村の委員の方々と生の意見交換ができたことは有意義でした。

7月28日、炬火リレーが本市でも実施され、いよいよ鹿児島国体が始まるのだと感じました。私も児童クラブの子供達と沿道で声援を送りましたが、たくさんのランナーの方々が笑顔で走っていかれたのが印象的でした。

最後に先日、公立高校の進学進路希望調査の結果を新聞で見ました。垂水高校は思っていた以上に伸びていなくて、ちょっと懸念されますが、今後いろんな働きかけをしていかれるのだらうと思います。もう少し増えていくといいなと思うことでした。

福里委員

7月28日、国体の炬火リレーに幼稚園の園児、保護者とうちの子供達と参加させてもらいました。正直、どんな感じになるのか、不安な面もありましたが色々な人たちが協力して炬火リレーを成功させようとしているのが感じられ、その場に参加することができてとても嬉しく思いました。

7月29日、貝殻の標本づくりに息子と参加しました。初めての体験でしたが、生きた貝を標本にすることを知らなかったので驚きました。拾った貝を処理して調べたり、標本の作り方を教えていただいたりして、自由研究は済んでいませんが何か興味をもっているようで、すごくいい機会だったと思いました。

1学期の終わりに広報部が作成した学校新聞が届きました。今年度、中央中に来られた先生方のメッセージに「おどろいた。Teamsを開いて、チャットで送って、アナログな年寄りにはちんぶんかんぶんです。職員会議も研修も何もかもがノーペーパー。生徒はタブレットを持ち歩き、自在に使いこなしています。年寄りも自在に使いこなしたいと生徒と一緒に学ぶ日々です。」とありました。先生も一緒に学びたいと言われた発言がとても印象的で親も同じ気持ちにならないといけないなと感じました。別の会

教育長

議ではGIGAスクール の話題になり、ある方が「タブレットだけに惑わされず に心の教育を大切にしてほしい。AIは気持ちがないんですよ。」と言われたのを聞いて、私もしっかり子供と向き合っ て子育てをしなければなら ないなと改めて感じました。

7月30日の市P連ニュースポーツ大会は、幼稚園で1チーム参加しました。コロナで3年実施されず、例年はバレーボール大会でしたが、今年度はニュースポーツでの実施でした。賛否はあったと思いますが、親睦という意味ではとても意義があったと思いました。

今までの委員の皆様方のものをまとめる形になろうかと思 います。まずお礼ですが、教科書採択に係る臨時の教育委員会、あ りがとうございました。先ほどから色々出てきておりますけれども、教科書というの はあくまでも教科書、原理原則は教科書で教えるものです。ここを履き違え ると、とんでもないことになるので、もう1回原点に帰ってみたいと思 います。教師の教材研究力は、これから特に求められる時代入っ ていくと思 いますので、タブレットの効果的な成果、教材研究、そして、いい教科書を うまく使っ て力をつけていっ て欲しいと思 います。

次に第17回のシーカヤック大会イン垂水ですが、当日、本当に天候恵ま れました。天気良すぎました。60名を超える参加者。子供も大人、そしてカナダからの子供参加もありまして、非常にインターナショナルで大変だ ったなと感じる部分もございました。運営する側が一番気を使った部分が安全対策です。ここは命に関わるところですので、海、陸、両方からの監視、そして休憩給水タイム。これもしっかりと時間をとって進めていっ て くださいました。運営としては、競争から参加型に中身を変えていこうと いうことで、シーカヤック、SUP、バナナボートでマリンスポーツを楽 しむ機会ということは今後もまた続けていきたいと思 います。このシーカヤック大会の運営に尽力いただいた社会教育課をはじめ、市の職員の労を 労りたいと思 います。熱い中大変だったと思 います。

次は燃ゆる感動かごしま国体の炬火リレーです。私も100メートルほど走 りました。車椅子ランナーに炬火を託しましたが、いい経験をさせてもら いました。先ほど出ましたけれども、参加されたランナーの方々、幼稚園 児からお年寄りまで本当に笑顔でした。そして何よりもうれしかったのは、 沿道の市民の方々の声援、これには背中を押されました。それをずっと運 営してきた国体推進課をはじめとする市の職員の見事な連携、協力。これ でもって、無事に炬火リレーができ、そして一番のねらいである気運の醸 成も図れたと思 っています。このことは週末の大綱引き大会に繋がればい いと思 うところでした。

それから鹿児島2023総文祭。7月29日に全国の高校生文化部のインター ハイと言われる総文祭の開会式に行ってきました。鹿児島県の公立、私立 の高校生の見事な演出に、心打たれるものがございました。特に実行委員 会の動きや表現力が素晴らしいなと思 いました。途中で合唱が入り、島唄 が入り、創作ダンスや創作劇があると、3年間ずっとこの温めてきた実行 委員の思いが伝わってきました。最終的にコロナとの闘いになったという ところは感動でした。その委員長、実は鹿屋出身の甲南高校の生徒ですご

くいい子でした。本当に自分の思いみたいなものを表現していました。

最後に8月2日、市の小中教職員の合同研修会を行いました。増田クリニックの増田先生は、脳の発達におけるスマホやゲームの怖さを改めて感じることでした。つまり子供の脳の発達に非常に危機感を持っていらっしゃいます。特に1歳から2歳まで絶対与えないくださいとのこと。スマホ脳を形成してしまうということです。つまり、スマホがないと、要するに癩癩を起こすとか、静かにしておけないという脳になってしまうそうです。スマホを与えるのはできるだけ遅いほうがいいという話をされまして、例えば外での自然体験を大事にして欲しいということでした。汗をかくとか、人との触れ合いとか、そういう体験をすること、もう一つは睡眠の重要性。とにかく9時、中学生でも10時には寝てほしいということで、脳は寝ている間に疲労回復とともに成長ホルモンを出しているとのこと、改めてスマホから脳を守ることの大切さを感じたところでした。先ほどAIのことも出ましたが、AIとは上手につきあうということです。ある程度ルールのもとで、しっかりと学校と家庭が連携して、子供にうまく使わせるようにすることが大事だということでした。ほかにICTを中心に4つのコースに分かれた研修があり、最後は前鹿児島大学で、現在中村女子学園大学の山本先生とGIGAスクールアドバイザーの渡辺先生が今まで私共がやってきたことなどをうまく整理していただき、これからGIGAスクール構想なくして、授業はありえないということ、また、個別最適な学びとか協働的な学び、つまり子供が主体の授業が展開されていく時代になっていくだろうというようなことをお話していただきました。とても良い研修会だったと思います。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

7月7日から8月8日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、8月9日から9月8日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会